ぼた餅と蛙

むかしむかし、あるところにとても仲の悪いばっちゃと、嫁がおったそうな。ある日ばっちゃが隣からぼた餅をもらったと。嫁がいないうちみんな食べてしまおうと思ったが、一人ではとても食い切れないので、残りを戸棚にかくして、「ぼた餅や、ぼた餅や。もし嫁が来たら、びつき(蛙)になれ。おらが来たらぼた餅になるんだぞ」と言って出かけていった。

ところが嫁はこれを戸のすき間から見ていたと。「欲張りばんばめ」と言いながら、戸棚から、ぼた餅を取り出し、皆たべてしまった。そのかわり食べたぼた餅の数だけからの重箱に蛙を入れて、元どおりにしておいたと。やがてばっちゃが帰ってきて、しめだ、しめだ、嫁まだ帰ってこねあがら、「おら一人でみんな食うにえな」とにこにこしながら重箱のふたを開けると、蛙がぴょん、ぴょん飛び出した。「おらだ、おらだ、そたなにはねると、あんこ、みな落ちてしまう」といってばっちゃはあわてて蛙を追いかけたが、みんな田圃へ逃げてしまったと。

あまり欲張ると、かえって損をするもんだとさ。

トッピンパラリのプー